

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	イーホクラボ		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 28日		~ 2024年 11月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62 (回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		~ 2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスにおいて、独自に研究・開発した脳機能プログラムを活用し、児童の発達段階に応じて、学習支援を中心とした1対1個別療育を行うことができること。	保護者や利用児童のニーズを細かく聞き取り、そのニーズに応じて様々な支援プログラムから課題設定を行っている。個別支援計画では、利用児童の課題と思われる点について、5領域すべてを網羅する形で課題設定を行っている。	個別支援計画作成後、支援課題に沿って療育を行い、合わない課題や、もう少し修正させた方が良い点については、保護者様とより綿密に情報共有をしていけるよう、取り組んでいきたい。
2	法人内研修計画に基づき、新人職員や既存職員への研修を積極的に行っていること。	新人職員や非常勤職員が療育を行っても、常勤職員と同じような質を担保できるように、教材や療育手法の研修を行っている。また、既存の常勤職員に対しても、療育内容が固定化しないように、常にブラッシュアップできるような研修計画を立て、定期的に研修を行っている。	新たな療育手法や、スキルを取り入れ、よりよい療育を提供できるように取り組んでいきたい。
3	小学校全教科、中学校全教科、高校数学・英語まで学習支援を行える職員を配置していること。	中高生は、課題考査前の提出物の進捗具合を把握し、時には一緒に計画を立てて、学習や生活面でのサポートを行っている。また、小学生は学校の進度に合わせた学習支援を行い、保護者様の要望に応じて学校機関との情報連携も行いながら、利用児童のサポートを行っている。	学校等との情報連携をさらに強化し、児童の最適な療育内容をチームで検討し、課題解決に取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育の質に差が生まれてしまうこと(指導員の得意分野にばらつきがあるため)。	ベテラン職員に比べ、知識の少ない職員が療育に当たることによって、療育の質にばらつきが生じてしまうため。	新人研修、社内研修をより充実させ、質のばらつきが生まれないように工夫していく必要がある。また、様々な得意分野を持つ職員を配置し、それぞれ補完しあいながら、療育の質を保っていく必要がある。
2	大規模災害に対応できるよう常日頃から備えておくこと。	開業以来、大規模な災害に見舞われた経験がないため。	定期的な災害訓練や、BCP訓練を通じ、いつ災害が起きても準備ができるよう備えておく必要がある。
3	情報発信、地域間交流等の機会をもっと増やす必要がある。	マンパワーの問題で、情報発信や地域の方々との交流を持つ機会が少なくなっている点。	保護者様ともっと交流する機会を持ったり(交流会の開催等)、地域のイベントに参加したりする機会を多く持つようにする。